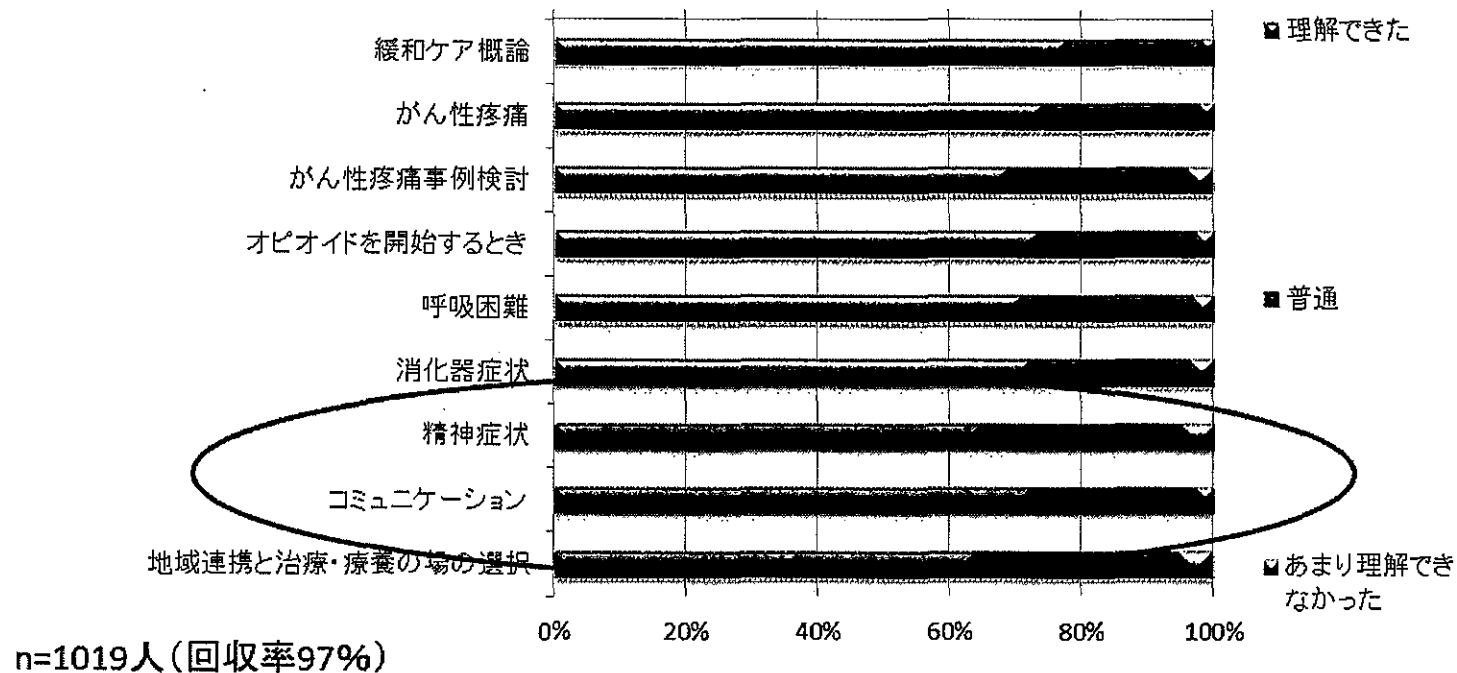


緩和ケア研修会の質の改善への 取り組みについて

日本サイコオンコロジー学会
大西秀樹

緩和ケア研修会受講者による評価

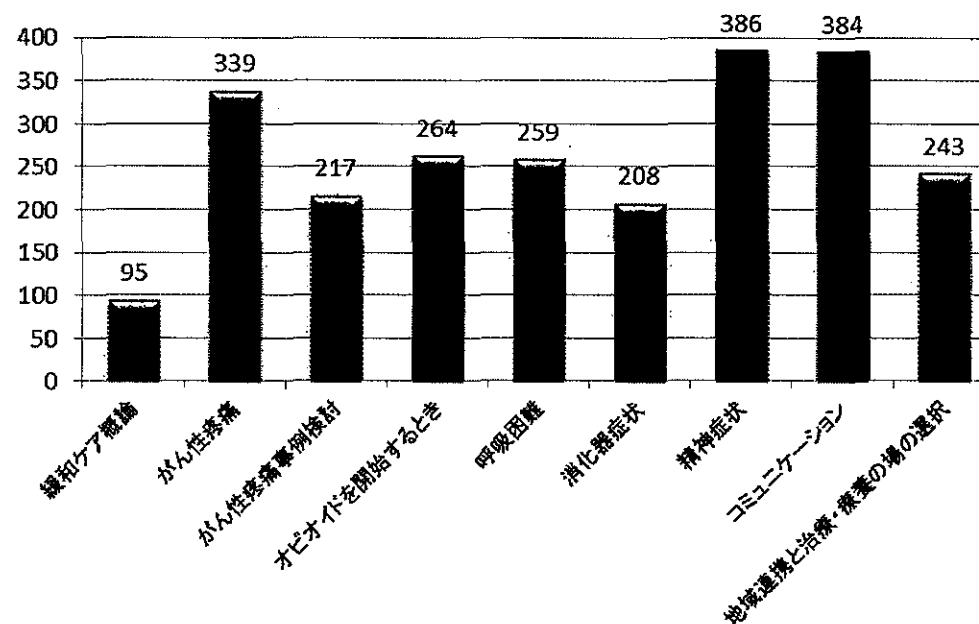
1、ワークショップにおける参加者の理解度



- 北海道地区(2009.1-2011.6) 33研修会受講者1019名
- 精神腫瘍の2セッションを含め、研修会の理解度は70%と良好

緩和ケア研修会受講者による評価(2)

2、特に興味をおぼえた項目(複数回答可)



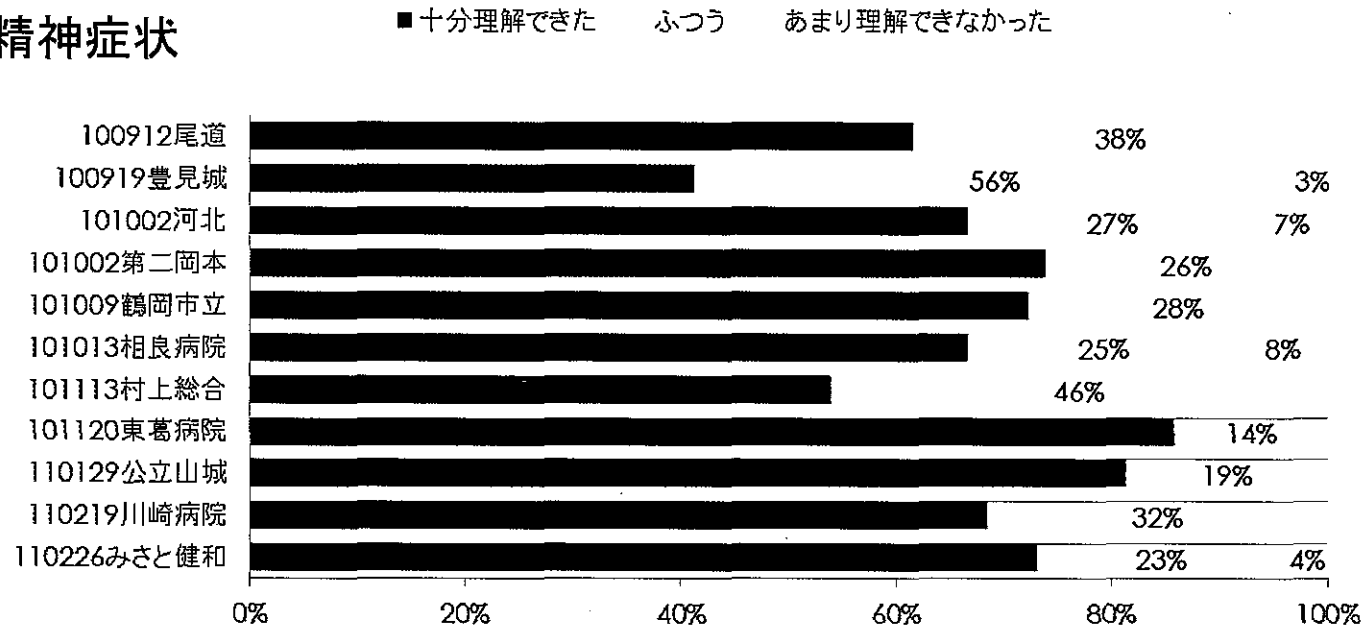
n=1019人 (回収率97%)

- 精神腫瘍のセッションに対して、精神症状・コミュニケーションともに受講者は高い関心を持っていた

緩和ケア研修会受講者による評価(3)

緩和医療学会主催研修会(2010)

精神症状



Quality controlと同時に指導者の地域偏在への対策がポイント

緩和ケア研修会の課題

- 受講が進まない
 - 研修プログラムの複雑さ
 - 臨床現場のニーズとの解離
- 研修の形骸化
 - Quality control
 - 地域偏在

緩和ケア研修会の質の改善(1)

- 研修プログラムの見直し(提案)
 - ① 見直しのための作業部会の設置
 - がん治療医(外科医、がん薬物療法医、放射線科医)、緩和ケア医、精神腫瘍医、患者会、等が参加
 - よりシンプルで効果的なプログラムへの改変
 - ② がん治療医(外科医、がん薬物療法医、放射線科医)を対象とした臨床現場の意向調査実施とニーズの把握

緩和ケア研修会の質の改善(2)

- Quality control

- ① 受講者から講師へのフィードバック体制を作る
- ② 主催者・緩和担当者からのフィードバック体制を作る
- ③ 研修会講師の支援体制を強化(指導者の少ない地域でも複数講師での対応を原則とできるように支援体制を組む)
- ④ 指導者研修会修了者・主催者・受講者を対象に研修プログラムに関する意向調査を実施
意向調査をふまえて、シンプルで確実な研修を目指してプログラムの修正をおこなう
- ⑤ 指導者研修会修了者へのフォローアップ研修会の開催を検討する



上記改善をおこなうために、サイコオンコロジー学会に支援窓口を設ける

緩和ケア研修会の質の改善(3)

- 指導者研修会修了者の地域偏在への対応
 - ① 研修終了者を増やす(目標800名)
 - ② 研修会修了者メーリングリストの利用を改善し、応援態勢を促進する
 - ③ サイコオンコロジー学会内に専従の事務局と支援窓口を設置し
研修指導者、主催者を支援するシステムを作る
(担当委員に指導者の少ない地域の人にも入っていただく)
 - ④ 偏在している地域の状況を調査(県の担当者)
越境応援がうまくいかない問題点の聞き取りを行い、支援方法を見直す
 - ⑤ サイコオンコロジー学会、総合病院精神医学会、心身医学会を通して、
受講を促進
 - ⑥ 偏在を解消するために講座担当者への働きかけを強化
 - ⑦ 他学会のポイントへの働きかけ

緩和ケア研修会の質の改善(4)

- より実践を目指した研修会を開催
 - ① 本年度より日本サイコオンコロジー学会主催の一般医療者向け研修会を開催する予定
(チーム医療と実践を意識した精神症状緩和に関する研修)
(PEACEのプログラムは、よりシンプルで効果的な方向にして、区別を図る)
 - ② 研修プログラムのフィードバックをおこない、地方開催可能なプログラムを次年度より提供する